

式 辞

冬が終わりを告げ、暖かい日差しに春の訪れを感じる頃となりました。この佳き日に、たかはしちあき高橋千亜紀教育委員様、たかはしまさひろ高橋昌弘副市長様を始め、多数のご来賓をお迎えし、平成三十年度卒業証書授与式を挙げてまいります。ことに、心から感謝申し上げます。

五十名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは今日、卒業式という大きな節目を迎え、九年間の義務教育を終えて、それぞれの進路に向かって巣立っていきます。

体育会では、ブロックリーグーとして後輩を引っ張り、最後のソーラン節を力一杯演技しました。合唱コンクールでは、各クラスわずか二十五人という人数にもかかわらず、美しい歌声を全校に響かせてくれました。生徒会やボランティア活動に、前向きに取り組み、進んで地域の行事に参加できる生徒達でした。地域の文化祭では、三年生が中心となり、片付けの手伝いを率先してやってくれました。地域の方々からも、中学生が手伝ってくれて助かったとか、中

学生はよく頑張るねとかたくさんのお褒めの言葉もいただきました。

部活動では、どの部も検討し、惜しくも県大会に出場できなかった部もありましたが、どのチームも最後まであきらめない一生懸命なプレーを見せてくれました。

中学校を卒業してからも、皆さんの母校や、故郷に誇りを持って生きていける人であってほしいと思います。

二〇一七年・一八年は、たくさんのみんなと同じ十代の若者が活躍した年でした。

将棋の藤井聡太ふじいそうたきし棋士、フィギュアスケート

の紀平梨花きひらりか選手、坂本花織さかもとかおり選手、卓球の平

野美宇のみう選手、伊藤美誠いとうみま選手、張本智和はりもとともかず選手

など、プレッシャーのかかる大舞台で、堂々と活躍する姿はとても輝かしく感じられ

ました。

中でも張本選手は、「試合では、絶対にあきらめない気持ちです。どんな劣勢になってもあきらめぬことはしません。」という名言を残しています。彼は十四歳の今年六月に、リオオリンピックの金メダリスト中国の馬龍ばりゆう選手に勝ち、十二月には卓球ワールドツアー・グラندファイナルで優勝しました。そんな彼でも、十月のユースオリンピックでは、緊張のあまり決勝戦の最後のゲームで十一対一で負けています。卓球では、「完封勝ちをしてはいけない」という暗黙のルールがあり、この一点は相手が意図的にサーブミスをしたものだったようです。彼はこの試合で、「自分の力不足と感情のコントロール不足」に気づかさ

れ、十二月の優勝につながったと言われている。います。

人間には、無限の可能性と一握りのチャンスが平等に与えられています。それをつかむためには、目標を持って挑戦する気持ちと、困難に立ち向かう勇氣、そしてこつこつと取り組む努力が必要だと思います。

また張本選手は、こんなことも言っています。「両親は、良い時も悪い時も表情を変えず、優しく接してくれた。一番感謝したい。」自分の努力の陰には、多くの人々の支えがあり、その力によって成り立っています。中学校三年間で言えば、ボランテニアや、登下校で会う地域の方、そしてお家の方や兄弟、先生などです。今の自分があること、頑張れる自分があることは、た

くさんの人たちが支えてくれたお陰です。その事を忘れない人になってほしいと思います。そしていつかは自分が誰かを支えられるそんな人になってほしいと思います。卒業生の皆さん、これからの可能性とチャンスを自分のものとするため、周りへの感謝とあきらめず前に向かって進む勇氣を持って頑張ってください。

そして、最後にみんなで読んだ論語

「子しのたまわ曰く、参しんよ、吾わが道みちは一いつ以もつて之これ

を貫つらぬく。曾そう子しいわ曰く、夫ふう子しの道みちは忠ちゆう恕じよの

み。」の言葉のとおり、誠実で思いやりのある生き方ができる大人になってほしいと思います。

終わりになりましたが、ご列席頂きました保護者の皆様方、三年間にわたり皆様に

とってかけがえのない大切なお子様をお預かりし、生徒一人ひとりに全教職員で一丸となって指導に取り組んでまいりました。この三年間、本校の教育活動に格別のご理解とご協力をいただきましたことを、教職員共々、心より御礼申し上げます。

ご来賓の皆様、地域の皆様も含めまして、改めて本校にお寄せ頂きました数々のご支援とご協力に感謝するとともに、卒業生の限りない前途を祝福して、式辞といたします。

平成三十一年三月十二日

備前市立伊里中学校長 松田典久